

事務局長	記録者
	

令和3年度 第2回大潟コミュニティ・スクール委員会 議事録

開催日時 場所	進行・記録	出席者
令和3年10月20日(水) 18:00~19:30 大潟町中学校 会議室	進行 山岸 賢一 記録 新井 慎一	出席委員 ・長澤 英夫 ・井部 孝一 ・仁田 秀三 ・松岡 浩子 ・石田 永 事務局 ・山岸 賢一 ・高橋 道代 ・柳沢 恵子 ・清水 雅之 ・渡邊 英雄 ・小山 将 ・渡邊 章雄 ・大瀧 明美 ・野池 康一 ・新井 慎一

1 開会

<長澤会長>

- ・昨日は中学校で同和教育の講演会があった。久しぶりに学校に来ることができた。1週間たつと中学校で授業参観、12月には小学校で授業参観、人権に関する講演会がある。だんだん元に戻りつつある。来年の4月には、完全に元に戻って前と同じように学校に出入りできればと思っている。
- ・今年度の途中経過の資料に事前に目を通したが、児童生徒が真面目に学校生活を送っていることがうかがえた。学校評価の中で「いじめは何があってもだめだ」という項目が小中学校共に100%近くであった。驚くと同時に、学校の最大の課題はこれであり、成果が上がっていると喜んでいる。

2 校長挨拶

(1) 小学校<石田校長>

- ・コロナが沈静化の方向に進んでおり、このまま通常の教育活動に戻せることを期待している。2学期の大きな行事としては学習発表会を予定していたが、9月特別警報下であり、当校は人数が多く、警報下では音楽練習もできず、やむなく中止の判断をした。持久走大会は、保護者応援は遠慮いただいたが、学年別に大会は実施した。遠足は1か月延ばして、目的地を6か所に分けて子供たちを分散させて実施した。今後も行事ができるよう願っている。
- ・10月10日、県立大潟水と森公園創立20周年のフェスティバルが行われた。6年生がコラボさせていただいて、カップ伝説の劇や顔出しパネルの設置、作ったカップの飾り物やクッキーなどの配布、縁日のようなゲームなどを行った。多くの方に楽しんでいただけたと喜んでいる。こ

の活動は単発ではなく、6年生が「大潟かっぱプロジェクト」というテーマの下に、1年間を通じて総合的な学習の時間で進めている活動の中で、ひとつの発表の場となった。学習の成果を地域に還元するいい機会となった。セレモニーでは、レリーフ除幕式を行った。レリーフは今の中学1年生が小学6年生の時に作ったもので、今回の展示となった。詳しくはお配りしたホームページや新聞記事をお読みいただきたい。体験活動に関連させて、研究授業も行っている。授業レポートにも目を通していただきたい。このように、地域学習、そして成果の発表をすることができた。

- ・課題は、子供に関しては、学力向上と学校生活の中での規律確保である。6年生の全国学力テストの結果を見ると、全国平均、県や市の平均を下回っており、喫緊の課題となっている。ギガスクール構想で子供一人1台のiPadが配備された。市の指示により、家庭に持ち帰り、約束の確認をしてもらった。学校では、機器やアプリを使いこなす技術はすぐ覚えている。一方で使用のルールが守られないこともあり、情報モラルが追いついていない現状が見られた。現在2回目の持ち帰りは延期し、モラル指導に当たっている。

- ・ホームページを週に複数回の更新を心がけている。学校の取組が分かるように努めていく。

(2) 中学校<野池校長>

- ・1年半以上のコロナ禍で教育活動に制約がかかっている。地域と共に歩む、地域に開かれた学校をつくっていききたいという願いをもっていたが、実際には、保護者に来ていただく機会は、4月のPTA総会、一部のボランティアという形でがんばり遠足、9月の体育祭も3年保護者のみと、非常にもどかしい思いだった。第6波に注意しながらも、ようやく本来あるべき姿に戻ってくるであろうと考えている。

3 議事

(1) 小学校からの説明及び承認 1学期学校評価の概要<新井>

- ・昨年度まで5件法で行っていたが、「どちらでもない」という項目を外し、中学校ともそろえて、今年度から4件法とした。また「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」という評価項目を、小・中学校同様の文言に今年度から統一した。児童生徒の意識を継続して確かめていく、もちろん100%になるように心を耕していくということで連携して進めているところである。
- ・「学校を楽しんでいる」「ふるさと大潟の人、もの、ことを学ぶどんどの学習に意欲的である」「いじめを許さない。相手を思いやる。」の重点項目が90%以上と評価が高かった。4月の校長の運営計画を基に、全職員で意識して子供と共に教育活動を進めてきて、多くの肯定的評価を得た。ただし、否定的意見にも寄り添い、郷土愛、人権尊重を基盤として教育活動を今後も進めていき、子供たちの心を耕していきたい。
- ・「挨拶ができる子供を育てたい」ということで、大潟子どもを育てる会と連携して、挨拶運動を展開した。校内では少しずつよくなってきているという評価で、「いい挨拶がされている」という地域の声も子供に返している。一方で、「まだもう一步である」という声があるのも事実である。数値だけでなく、実態、声も聞きながら、方策を立てて、爽やかな挨拶ができる子

供を育てていきたい。

- ・家庭学習、メディアの項目では、児童と保護者の肯定的評価に差があることが分かった。規則正しい生活習慣の確立を目指して、地域ぐるみで取り組んでいる「元気アップ大湯」の充実、発達段階に応じた指導を、今後も保護者、地域と連携して推進していきたい。

(2) 中学校からの説明及び承認 1学期学校評価の概要<野池校長、山岸教頭>

- ・保護者へのアンケートの、学校の努力、生徒への接し方、保護者への対応が90%以上の高い肯定的評価を得た。生徒へのアンケートの、学校生活が楽しいかについても高い肯定的評価を得た。校長として有り難いことである。
- ・学校経営の柱である学力向上と生徒指導に課題はある。メディア利用に使われている時間が、学習時間になれば、充実した学びになると思うが、結局は確かな学力として成果には表れていない。全国学力・学習状況調査の結果からも厳しい状況にある。また、生徒指導に関わり、いじめを起こさない、見逃さない、健全なる人間関係を築けるようにしてほしいというのが願いであるが心配な点もある。
- ・そこで、2学期の学校経営として、2つの視点を職員やお便りで示している。1つめは「授業が分かり、自ら学びに向かう意欲や力を育む学習指導の充実」、2つめは「自分と仲間を大切にし、目標を共有しながら協力して取り組める集団づくり」である。まだ制約がある中ではあるが、様々な活動を通して自分の考えを伝えながら、自分の役割を果たして、人に認められる経験を大事にしたい。
- ・先週、バイオリニスト奥村愛さんが弟さんと一緒に、当校でライブコンサートを行った。新潟日報主催の事業で、小山作之助先生のゆかりの地ということもあって実現した。
- ・家庭学習は例年の課題であるが、終学活で学習計画を立てさせ、そこから自主性をもって取り組めるようにしていきたい。
- ・挨拶について、子どもを育てる会と地域ぐるみで挨拶運動ができたことは、おおきなひとつのきっかけになったと考える。
- ・「元気アップ大湯」も地域ぐるみで取り組んでいるが、少しマンネリ化した部分を意識付けしたいと考えている。先日、メディアに関わる講演会として、犀潟病院から講師をお招きして、ゲーム依存やSNS依存をテーマに行った。

【質疑】

<松岡>

- ・リモートの授業について、講義を一方向的に聞く形式は、集中して取り組むのは大学生でも難しいことを見てきた。その日の理解が難しい場合、チェックをして漏れ落ちがないようお願いしたい。

<仁田>

- ・話を聞いて、小学校も中学校も学力向上や生徒指導が大変だと感じた。子供が学習に正対できない状態がうかがえる。授業が分からないと、いたずら、人と話す、授業妨害、徘徊等が起こってしまう。個別の指導や小集団の指導の体制ができないかと思っている。学級全体がざわざ

わして授業が成立しない、学力は下がってしまう。大学のボランティアを採用したり、地域の方を活用したりできないかと思っている。

<石田校長>

- ・絶対的にマンパワーが足りない状況はある。級外職員は1名、教育補助員は2名しかおらず、不安を抱えている子供の対応に当たっている。
- ・分からないという状況もあるが、学習規律が育っていない状況、指導不足の状況をきちんと改めていきたい。職員が叱るべきところは叱って改めさせて、授業そのものが成立するよう徹底したい。

<清水>

- ・オンラインについては、協力を惜しまない。学校でオンラインを進めておくと、万が一、第6波になっても家でいかせるようになるので是非取り組んでいただきたい。カメラ1台だと一方的な授業になりがちだが、一人1台のパソコンがあるので、グーグルクラスルームを介す、ロイノートを紹介するなど、アプリケーション側で子供たちが何をしているのかを教員が見取るといったような仕組みをつくるのが大切なので、できる限り協力したい。

<野池校長>

- ・授業についていけなければ、学習に正対できないのは当然と言える。幸いにも、悪質な授業妨害や特定の学級が危ないような状況は見られない。ただし、学年が上がるごとに差は顕著である。3年生は部活を引退し放課後が空くので、学年で時間を取って補習学習に取り組んでいるところである。1・2年生については、定期テスト前に「かっぱタイム」という補習学習のまとまった期間はあるが、日常的に放課後等の個別指導の時間を取るのには厳しい状況にある。上教大学生ボランティアなど大事な選択肢と考えたい。

- ・小学校、中学校とも説明について承認

(3) 保・小・中連携<石田校長>

- ・保・小・中の連携組織である大湊区教育研究会は部会が6つある。
- ・学力向上部会…コロナ禍で計画通りに進んでいないところもあるが、職員同士で授業公開を参観し合う機会をなるべく設けている。
- ・特別支援教育部会…特別な支援が必要なニーズのある子供たちのために、保育園段階から情報交換をして実態把握に努めている。
- ・人権教育、同和教育部会…中学校区として、今年度から市の同和教育の指定を受けて取り組んでいる。先日の中学校を会場にした講演会では、オンラインで結んで小学校6年生が学ぶなど連携をしている。
- ・生徒指導部会…大湊の子どもを育てる会とタイアップした事業のひとつ、挨拶運動は天気が悪い中、保護者、地域、小・中学校が連携して取り組むことができた。
- ・生活・健康部会…大湊の子どもを育てる会と連携して、地域ぐるみで「元気アップ大湊」を確実に実施している。

- ・保・小連携部会…保・小の間で、就学前後の支援、指導の流れを作ったり、児童や指導内容の情報交換を行ったりしている。

(4) 同和教育研究指定地区について

- ・上越市の同和教育研究指定地区の事業があり、2年間の指定になる。大潟町中学校区と頸城中学校区が一緒に取り組むという形で、今年は1年目として、小・中学校が連携した取組を行っている。
- ・1年目の令和3年度は、各校の実態に合わせて、人権教育、同和教育に関わる図書を購入を各校で行い、研修に、授業にいかすようにしている。
- ・昨日は、大潟町中学校区では古川邦子さんの講演会を実施した。本日、頸城中学校区で実施した。
- ・オンライン等の研修会にも、小・中学校とも積極的に参加している。
- ・来年度が研究指定発表の本番ということで、1年かけて準備を進めている。中学校は10月27日に、同和教育を含めた授業参観を予定している。小学校も12月2日に、人権教育、同和教育の授業参観を計画しているので、是非、見ていただいて貴重な意見をいただきたい。

5 事務連絡

(1) 今後の予定

<事務局>第3回コミュニティ・スクール委員会を2月中旬に予定。

(2) その他

<小学校>

・12月2日(木)大潟町小学校にて

13:45~「学習参観」15:00~「人権を考える講話会」講師：上越市教育委員会 鬼木英幸様

<大潟の子どもを育てる会 生活習慣改善部会>

・先般の挨拶運動…多数の参加へのお礼、年に1回の活動は継続したい

・11月25日(木)大潟コミュニティプラザ 多目的ホールにて

18:30~中学校のワークショップ発表会

19:00~講演会「ネットトラブルの現状、対策」「防犯対策」講師：上越警察署生活安全課

6 閉会

<高橋副会長>

- ・講演会などリモートもある世の中に今後なっていくだろう。逆に、人と会わないと情報もなく寂しさも感じる。夕方、駐在さんが来られた際、「コロナ禍で小・中学校の行事等で委員さん等と会うこともなく、誰がどんな活動をしているかも分からない。早く普通の状態に戻って皆さんとお会いしたい。」と話をされていた。いざという時にもいいことではない。コロナ禍の新しい生活様式に取り組みながら、皆さんと接する中で情報交換を通して、いい方向に進めていきたい。